

道徳科学習指導案

- 1 実施日・実施学年 令和8年1月21日（水）5校時・第5学年
- 2 特別の教科 道徳のねらい
ユニセフ親善大使として活動する黒柳徹子さんの心情を考えるを通して、他国の人々の生活の様子について理解し、国際親善に努めようとする心情を育てる。

- 3 人権教育の視点
本時は、導入で、外国の貧富の差の現状や「子どもの権利条約」から、外国のこどもたちの人権が保障されていないという現状に気付かせたい。また、様々な意見交流やALTが考える国際理解、国際親善について話を聞くことを通して、「国際理解、国際親善」について多面的に考えさせたい。

段階	学習活動と主な発問 (□は基本発問、▣は中心発問)	時間	予想される児童の反応	教師の支援 (◎人権教育上の配慮)
導入	1 アンケート結果から考える。 『みなさんが考える、国際理解、国際親善とはどのようなことですか。』 2 ALT にフィリピンの貧富の差の現状を紹介してもらう。 ・子どもの権利条約について知る。	10	・外国人と仲良くする。 ・相手のことを理解する。 ・その国のことを知る。	・事前実施したアンケートの結果を振り返ることで、本時への興味・関心を高める。 ◎子どもの権利条約について紹介し、フィリピンのこどもたちの人権が保障されていない現状に気付かせる。
展開	3 教材を読み、話し合う。 ・範読を聞く。 黒柳さんはどのような思いをもって、ユニセフ親善大使として活動しているのだろう。 ① ネパールの現状を知った黒柳さんはどんな気持ちだったでしょう。 ② 黒柳さんが「あんまり楽しいっていいことは…」と話したのはなぜでしょう。 ③ 黒柳さんが、世界の約90%のこどもたちが辛い状況で暮らしていることを知ることができたことを「ありがたい」と思ったのはなぜでしょう。 ④ あなたが考える、国際理解、国際親善とはどのようなことですか。	30	・こどもたちが大変そう。 ・かわいそう。 ・何とかしたい。 ・楽しくはない。内戦などが起きているから。 ・死ぬかもしれないこどもたちを見ているから楽しくはない。 ・辛い経験をしているこどもたちがいることを知ることができたから。 ・会ったこどもたちが喜んでくれたから。 ・自分にもできることがあると思うから。 ・世界で何が起きたか知る。 ・自分ができるところをやる。 ・外国のことについて調べてみる。	・範読前に、黒柳さんの概要を紹介する。 ・範読後に、ネパールの地理や歴史について説明する。 ・黒柳さんがネパールの現状を知り、驚きや悲しみを感じていることに気付かせる。 ・「楽しいということはない。」と発言することが予想される。問い返しを行い、児童の考えを深めさせる。 ・「ありがたい」と思っている理由について考えさせることで、ユニセフ親善大使として活動している黒柳さんの思いに迫れるようにする。 ・グループで意見交換し、多様な意見が出せるようにする。 ・事前アンケートの結果と④で出た意見を比較し、変容を感じられるようにする。
終末	4 ALT の考える「国際理解、国際親善」について話を聞く。	5		◎ALT の考えが正解というわけではなく、それぞれ考えたことが、国際理解、国際親善につながるということを伝える。